

足利風 -ashikaga-fu

2020
4月号
Vol. 67



絵手紙：齋藤 博

足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

* ボランティアの自立性と協働性 *

四半世紀前(1995年)の1月17日未明発生した阪神淡路大震災の3日目に被災地・神戸の長田に入った。“ボランティア元年”と言われ、多くのボランティアたちが全国から被災地に入った。当時鮮明に覚えているのは神戸附属病院の精神科医・中井久夫さんの語った「いってくれること(copresence)」の大事さだった。黙ってじっと見守ってくれる人の人がいることが、いかに被災地の人々を勇気づけるかということだった。その後、私たちは“3.11”東日本大震災と原発事故を経験した。それ以外にも多くの震災・災害などを経験した。その現場に立つたびに、私たちが被災者の方々に対して心の底からできる、一番大切なことは、“見守りつづける”ことなんだなあ、と思いつづけて来た。



～ボランティア活動が、市民運動、住民運動、ネットワーキングの活動と、時に重なりあいながら果たしてきた大きな意義は、普通の人々の自立性と協働性とを結びつけたことにあります。..ボランティア活動を、より力強いものにし、次々と現れてくる時代の新しい課題に対して、あらためてその自立性と協働性を射程に入れて、ひとつひとつ乗り越えて行くことが望まれます..。～

と、永年、水俣フォーラム代表であり、血の通った“社会学”を創りあげた、足利にもご縁の深い、栗原 彬(立教大学名誉教授)さんは語っています。

ボランティアの身につける価値の遠近法があるという～ぜったいに見失ってはならないもの・あったらいいけれども無くてもいいもの・なくてもいいもの・ぜったいにあってはならないもの～この4つを見分けられる眼力だという。そして、組織にあっては、いつも全体を気遣いながら、自分でできるところで責任を担う、ということ。..未来からの風をはらんだ、自立と協働のまちづくり..を、こそ目指していきたいと、切に思っている。(M生)

* 論語の魅力を満喫！ *

「茶論」～生活の中にある論語の教え～は、佐野短大名誉教授・国分三郎さんの明快かつ分かりやすいお話しで参加者一同感動しきりでした。新一万円札の渋沢栄一の生涯をたどり、名著「論語と算盤(そろばん)」の解説、そして、安富 歩さんの名著「ドラッカーと論語」を道案内に、“マネジメント”の大家・ドラッカーの経営学のツボを、論語の言葉を引用しながらの解説..に感嘆しました。2500年前に書かれた論語」の尽きせぬ魅力を再認識した素晴らしい「茶論」となりました。

「地域づくり」とは「知人や友人を増やすことだ」という仮説

廣瀬隆人



地方創生の文脈で近年「地域づくり」という言葉が政府関係の文書で統一的に使用されるようになった。かつては「まちづくり」ということばが定着していた。生涯学習推進の文脈でもかつては「生涯学習まちづくり」という文科省の事業が存在した。また、最近では地域福祉の文脈で「地域づくり」という言葉が選択されている。

これに対して「まちづくり」は都市計画から生まれた言葉である。代表的な文献として田村明『まちづくりの発想』(岩波新書)1987 があげられるが、その背後には、住民自治、市民社会、市民参加、市民協働の流れがある。主体性を基軸とした「まちづくり」は、「住みよい地域を形成するための諸活動」というように解釈されることが多い。これに対して、地域づくりは地方創生の施策として地域医療、地域福祉、学校を核とした地域づくりの施策として、強靱なコミュニティが必要だという観点で強調される。そして、地域づくりと地域づくりの担い手育成が強調されている。その背後には、人口減少、少子高齢の問題が横たわっている。市民社会の形成という市民の主体性が前面に出る「まちづくり」に対して、「地域づくり」はややトップダウンの印象を与えている。

それにしても、「地域づくり」も「まちづくり」にしても使用する主体によって微妙に含意するものが異なる言葉である。地域づくりとは何か、様々な現場でこの言葉の意味を共有しないままに講義が、会議が、説明会が進むのである。そしてだれもが地域づくりという言葉の意味を分かりやすく説明することなく、地域づくり事業の説明が開始されるのである。いつの間にか、了解された言葉になっているのである。自分も大学に在勤していたころは、抽象的な言葉を振り回して、わかっていることとして話を進めてきた。このことは深く反省している。現在のところ、地域づくりは「知人や友人を増やすことだ」と説明することにしている。課題解決も主体形成(担い手育成)も知人や友人などの同志がいなくては何もできないのだ。まずもって知人や友人を増やすために祭り、イベント、演劇、講座、セミナー、旅行、ボランティア、趣味の会、教養講座が進められていると考えられるのである。この知人や友人という仲間は、課題をいとも簡単に解決してくれたりするのである。様々な地域づくりの事業では、初対面の人と出会い、顔見知りになり、顔見知りは、再会によっては知人になる。知人はたくさんの会話や協働によって友人になる。事業やイベントを主催して、同じ苦労を通して友人はより親しくなり、親戚づきあいになる。そうして、お互いに助け合う生活をするようになる。結果としてお互い様の人間関係になるのである。人は、大事にしている友人は、放っておけないのだ。子供の頃に世話になった近所の年寄りのことは、見捨てることはできないのだ。一緒に汗を流した仲間が困っているときは、できる限りのことしてやりたいのだ。知らない人の支援は人助けでも友人、知人の支援はお互い様なのである。それが地域福祉、「地域づくり」なのである、と考えている。

* NPO 法人ダンデリオン設立しました *

この法人は、障がいをお持ちの方に生産活動機会の提供と能力の向上に必要な訓練、就労支援を行います。また、障がいをお持ちの方の生活上困難なことを代行し、生活の質の向上を図る障がい福祉サービスに関する事業を行います。すべての人々が健やかに暮らせる地域づくりを目指します。

Eメール info@mk-dandelion.main.jp(村岡)

① インフォメーション ①

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★4月17日(金) PM2:00～4:00

*本 : 「10宅論」(隈 研吾)

*案内人: 北村 隆 さん

*ひとこと:住宅には隠そうと思っても現れてしまう「顔」がある。また、その逆もある。
「顔」は住宅に自ずと備わってくるものです。新国立競技場など話題の建築家・隈 研
吾さんの住宅というフィールドで展開される現代日本文化論の数々をお楽しみくださ
い。

★5月9日(土) PM1:00～3:00

*本 : 「無私の日本人」(磯田道史)

*案内人: 鈴木光尚 さん

*ひとこと:この本は、著者が、これから生きる人々のために、どうしても書いてお
かなければならないと強く願った、想い溢れる一冊です。日本の歴史に埋もれていた、
無私の魂で地域の幸福を願った壮絶な人物の生き様を描いた傑作です。GDPなど
経済競争に勝つことだけが人としての「幸せ」ではない！と、いうことを思い知らされ
ました。

■会場:足利市民活動センター

■参加費:無料

■お問い合わせ・事務局:足利市民活動センター ☎44-7311

* センターからのご案内 *

☆みんなの広場 ～ 4月・5月のご案内 ～

- * 4月 6日(月)～ 4月16日(木) 木彫りの地蔵と仏像 展
- * 4月21日(火)～ 4月30日(木) ふるさとの山の四季 写真展
- * 5月11日(月)～ 5月21日(木) 創作人形 展
- * 5月25日(月)～ 6月 4日(木) 静と動の日本画 展

☆相談室&講座のご案内

- * 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照
- * 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

編集後記

足利市民活動センターが大橋町から相生町へ移転する。センターのシンボル
だった大きな桜やかまぼこ型の建物とお別れすることがとても残念でならない。
私たちを見守ってくれた桜と建物に感謝の気持ちを贈りたい。「ありがとう」

(しおぱん)